

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Familyいっぽ白山教室（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 18日		～ 2025年 12月 22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	2025年 11月 18日		～ 2025年 12月 22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	元教員、保育士、理学療法士、作業療法士など、多職種が職員として在籍することで、多角的な視点での支援方法を立案できる。	支援計画を立案するときに、多職種でのミーティングを行い、意見を出し合い、計画を立案している。子どもにより、必要なく支援を行える職員が個別に対応できるようにしている。	個別に行っているアプローチについての経過や結果を、職員間で共有することで、各職員のスキルアップにつなげていく。
2	同一法人に、親子通所、児童発達支援があるため、就学前から関わっていたお子さんに対して、情報を共有しながら事業所移行ができる。また、成長とともに大きな集団での療育に移行していくこと（松本→白山）も段階的に行うことができる。	ミーティングや研修などを介して、情報交換を密にし、子どもの様子により、その子どもがより成長できる支援を検討して事業所併用や移行を提案している。両施設に関わる職員も数名在籍するため、事業所間の情報共有がスムーズである。	両施設に関わる職員が、必要時に各施設に情報を確実に届けられるように書面などを利用して情報共有ができるとよい。
3	入学時から通所する子どもが多く、周りの子どもとの関わりの中で学年が上がっていくにつれ年少者に対する接し方やかわり方を学ぶことができる。また、施設での活動をよく知っていることで、やりたいことを提案し、実現に向けて職員とともに検討する機会がもてている。	集団活動でグループ分けをするときに、子どもの適性を考えて役割を持ってもらっている。また、時には、子ども自身に、取り組みたい内容を提案してもらい、実現に向けて環境整備やルールを検討し、子どもと相談して実現している。	集団活動時に役割を設定し、協力してもらう場面をふやしていくことで、達成感を感じ、より集団のなかでやりたいことを実現していく意欲が高まるよう支援していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の環境が、2フロアに分かれているため、プライバシーが守られる一方で、集団の良さを肌で感じてもらう機会が減るといったデメリットもある。	個別と集団の活動環境を行き来できるようにすることで、どちらの良さも取り入れる事ができる。	個別支援と集団支援のメリハリをつけ、集団のなかでも活動にふれる時間を設けることができるよう環境を整えていく。
2	転倒などへのけが防止と保温のため床にマットを設置しているが、子どもたちの動きによりマットがずれたり外れたりする。そのために運動遊びを取り入れにくい。	コンクリート床のためある程度のマットの厚みが必要となる。収納の関係上、すべてをマットで覆うことも困難であるためジョイントマットを使用している。	大規模の改修をすることは難しいが、マットの種類、固定方法を検討していく。
3	ご家庭によっては、ご仕事の関係で、個別でお話する時間がとりにくい場合があり、ニーズの把握に時間を取れない時がある。	個別支援計画書の立案時以外に、日々の困りごとなどの話をゆっくりお聞きする機会がとれていないご家庭もある。	計画書立案時にアセスメントシートを記入していただいているが、それ以外でも困りごとや悩みごとなどを気軽に相談、伝達していただける機会を持てるよう、SNSを含めたツールを検討していく。